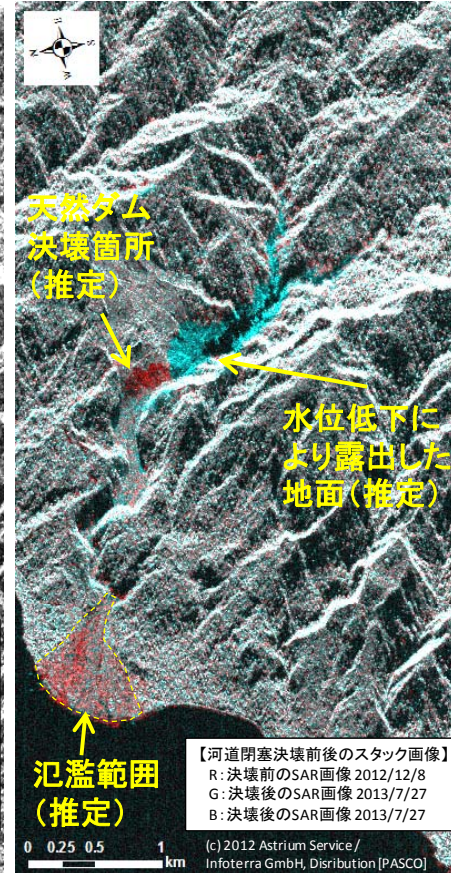
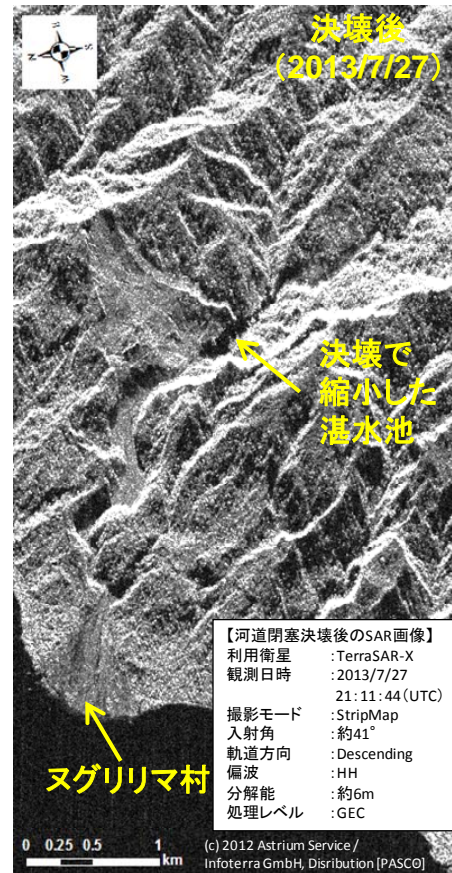
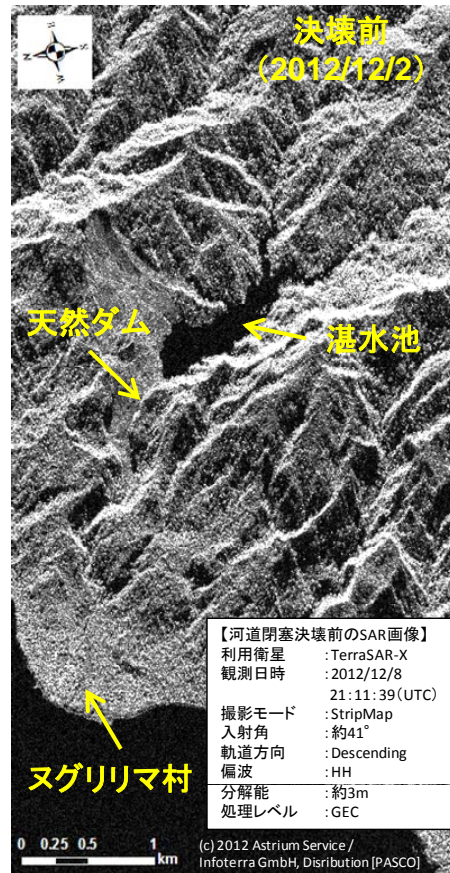
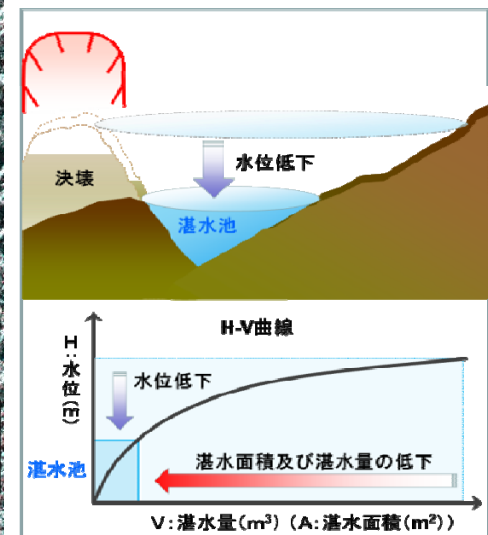


インドネシアにおける天然ダム決壊後の衛星画像解析

天然ダム決壊後の7月27日に撮像された衛星画像(SAR強度画像)から決壊後に残存した湛水範囲を判読した。決壊前に得られていた地形データから、判読された湛水範囲となることが想定される湛水面積を逆算することにより、決壊後の水面標高を求め、決壊前後の湛水量の差を計算によって求めた。



赤い範囲(決壊前より後方散乱強度が低下): 土砂の侵食・堆積により地面の粗度が低下した範囲と推定
 青い範囲(決壊前より後方散乱強度が増大): 水面であったものが水位低下により地面が露出して粗度が増大した範囲と推定



判読・解析結果

- ・天然ダムの高さは約110mから約50mにほぼ半減した。
- ・それに伴い、約1,300万m³の湛水が流出したものと推定される。
- ・谷出口下流の氾濫範囲は、約37万m²と推定される。